

中間評価（表紙）

添田町歴史的風致維持向上計画（平成26年6月23日認定）
中間評価（平成26年度～30年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承	3
II 歴史的建造物の保存・活用の推進	4
III 歴史的建造物を取り巻く環境の保全	5
IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進	6
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 文化財の情報発信・PRの充実	7
ii 文化財に対する機運の醸成	8
iii 観光客の受入態勢の充実	9
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 公共サイン整備事業	10
B 児童・生徒に対する意識向上推進事業	11
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 英彦山神宮にまつわる歴史的風致	12
2 添田本町地区と神幸祭にみる歴史的風致	13
3 英彦山水系流域と伝統芸能にみる歴史的風致	14
4 彦山踊りにみる歴史的風致	15
5 英彦山詣でと英彦山権現講にみる歴史的風致	16
6 高住神社にまつわる歴史的風致	17
■ 庁内体制シート（様式6）	18
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	19
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	20

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	英彦山神宮にまつわる歴史的風致	I , III	
2	添田本町地区と神幸祭にみる歴史的風致	I , II , III , IV	
3	英彦山水系流域と伝統芸能にみる歴史的風致	I , IV	
4	彦山踊りにみる歴史的風致	I , III , IV	
5	英彦山詣でと英彦山権現講にみる歴史的風致	I , IV	
6	高住神社にまつわる歴史的風致	I , II	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史と伝統を反映した人々の活動の継承		
II	歴史的建造物の保存・活用の推進		
III	歴史的建造物を取り巻く環境の保全		
IV	歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	文化財の情報発信・PRの充実		
ii	文化財に対する機運の醸成		
iii	観光客の受入態勢の充実		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	公共サイン整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	児童・生徒に対する意識向上推進事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年
方針	I 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

本町の各集落に受け継がれている祭礼や伝統芸能等の歴史と伝統ある活動は数多くあるものの明らかにされていない活動も多い。また、人口減少や高齢化による担い手不足や活動継承に対する自負や使命感の薄れから活動の継承が困難になりつつある。

そのため祭礼や伝統芸能等の掘り起しや実態把握を進め、これらの活動への積極的な参加を促すとともに、地域住民や保護団体への支援を実施することにより後継者育成を図る。特に子どもについて、自分が住む地区や町の歴史、祭礼にふれる機会を創出することにより、将来の担い手や継承者の育成を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	普及啓発イベント事業	イベントを2回、報告会を14回開催	あり	H26～35
2	民俗芸能等伝承支援事業	2団体に助成金を交付	あり	H27～35
3	児童・生徒に対する意識向上推進事業	H27テキスト作成 H28～町内校の授業にて活用 出前講座や現地見学を計3回開催	あり	H27～35
4	津野神楽の国指定重要無形民俗文化財指定	平成29年4月国指定重要無形民俗文化財豊前神楽に追加指定	なし	H29～
5	まちづくり団体への助成・支援	まちづくり団体等への継続的な支援	あり	H26～35

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

○普及啓発イベント

平成29年度は、「文化遺産を活かした地域活性化について」をテーマとしたまちづくり講演会を開催し、約350人が参加した。文化財を今後どのようにまちづくりに活用しつつ保存していくのかについて多くの人から好評を得ることができ、回収したアンケート結果では、約85%の参加者から講演会が参考になったと非常に有意義なものとなった。

○まちづくり団体への助成・支援

本事業により、2地区ある重点区域それぞれに団体が設立され、当該地域の歴史勉強会の開催や散策マップの作成など地域に根差した活動をすべく日々事業を進めている。

○津野神楽の国指定重要無形民俗文化財指定

守り受け継がれている津野神楽について、詳細な調査の結果、既に国指定無形民俗文化財となっている「豊前神楽」の要件をみたしていることが判明したため、「豊前神楽」への加入認可を受け、国指定無形民俗文化財に追加指定になった。

まちづくり団体設立に向けた歴史講座の様子

平成29年4月国指定重要無形民俗文化財豊前神楽に追加指定された津野神楽

④ 自己評価

普及啓発イベントや歴史テキストを使った授業等継続的に実施してきたことにより、歴史講座の参加が増加したり、学校においても授業のみならず休み時間に図書館でテキストを広げる子どもも増えているなど、将来に向けた礎が築かれつつある。

⑤ 今後の対応

後半の5カ年においても普及啓発イベントや児童・生徒に対する意識向上の取り組みを継続実施することにより、さらなる意識の向上と定着を図り、後継者の育成を行う。

設立されたまちづくり団体では、自主的活動が本格的に始まってきているのでサポートを実施しながら、他の団体とも連携し地域に根付いた団体へと昇華させたい。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年
方針	Ⅱ 歴史的建造物の保存・活用の推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

歴史的建造物の中には経年劣化により保存に影響を及ぼしている建造物があり、また活用が十分でないため、日常的な維持管理が行き届かず損傷が進行している。また、宿坊や旅館建築、町屋等の歴史的建造物は年々減少し、英彦山山中に点在する修験道にまつわる遺跡等もその地形的特徴から天災に見舞われることが多く遺跡の滅失が危惧されている。

そのような歴史的建造物を保存・活用するため、指定文化財については法律等に基づき保存・活用を実施し、指定外の建造物は歴史的風致形成建造物に指定するとともに保存・活用を図る。また、損傷が進行している建造物は所有者等への支援策を講じ、所有者や住民と協働により維持管理や活用を検討する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	中島家住宅保存修理事業	H30解体工事が完了し、組立工事へ移行	あり	H27～33
2	中島家住宅活用官民連携検討事業	H30より検討を開始し、民間活用の可能性を探る	なし	H30～31
3	英彦山地区再興整備方針策定事業	H28年3月策定	あり	H27～28
4	英彦山区域歴史的風致形成建造物修理事業	H30年度対象建造物を1件を指定	あり	H28～35
5	添田本町等区域歴史的風致形成建造物修理事業	H30年度対象建造物を1件を指定	あり	H28～35

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

○中島家住宅保存修理工事
H30年度に解体工事完了し組立工事へ移行。H33年度の工事完了を目指す。

○中島家住宅活用官民連携検討事業
完成後の活用策について、PFI等を含む民間活用の可能性を探るべく民間企業の関係者や地域の住民を含めた会議を複数回開催している。

○英彦山区域歴史的風致形成建造物修理事業・添田本町等区域歴史的風致形成建造物修理事業
H30年度に指定候補建造物の中から3件を指定し、H31年度より修理を実施予定。H35年度までに15件の指定を目指す。

中島家住宅（工事前）

中島家住宅活用官民連携検討会議の様子

④ 自己評価

中島家住宅保存修理事業において若干の遅れが生じたものの完成後のソフト事業の検討等全体的な進捗は良好である。

歴史的風致形成建造物の修理事業では、個人負担がネックであるとの意見から指定建造物をいかに増やすかが課題である。

⑤ 今後の対応

中島家住宅においては、ハード・ソフト両面から事業を進め、修理完成後すぐに事業展開が進められるよう準備を行いたい。

歴史的風致形成建造物については、損傷が進む建造物が増加しているため、候補物件所有者等に対する説明会の開催等により理解を求め、指定件数の増加を図り早急に事業着手し保存修理に取り組みたい。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年
方針	Ⅲ 歴史的建造物を取り巻く環境の保全	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

英彦山門前町では参道沿いの町割りを構成する石垣が近代的なよう壁となったり、添田本町では伝統家屋の減少に伴って伝統様式でない住宅が増加し、その歴史的風致が感じにくくなりつつある。また、周辺環境においても草刈りなどの日常的な維持管理が行き届いておらず歴史的景観が阻害されている。

これらの風情を守りつつ歴史的景観を維持するための方策を講じるため、英彦山門前町では歴史的風致を損ねている上水用パイプ等の要素の改善を行い参道の趣の保全を図る。また、歴史的建造物やその周辺環境の草刈り等、軽微な作業は住民が主体となって行えるよう活動支援を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	英彦山神宮参道保存整備事業	英彦山神宮奉幣殿を始点とし、階段補修や水路整備を実施	あり	H29～35
2	英彦山神宮参道修景整備事業	取水管パイプの撤去や手摺りの取り替えを実施	あり	H29～35
3	史跡英彦山保存活用計画策定事業	H30年度策定	なし	H29～30
4	庭園調査	年に1庭園ずつ調査を実施し、3庭園の平面図を作成	なし	H28～30
5	中島家住宅庭園の草刈り	地元住民が年2～3回程度実施	なし	H28～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

○英彦山神宮参道保存整備事業・英彦山神宮参道修景整備事業

H29年度に測量・設計を実施しH30年度より工事に着手している。H30年度は全工事区間のうち最も勾配が急な英彦山神宮奉幣殿からの階段補修や手摺りの取り替え等を実施。参拝者からも昇り降りがスムーズになったと好評を得ている。

また、水路掃除は地域住民が行っているが、落ち葉等が溜まっていて掃除しにくかったが改修によりスムーズに行えるようになった。

○中島家住宅庭園の草刈り

添田本町地区の住民が中心となり、年2回～3回程度実施している。地元の宝であるとの思いが住民にも芽生え、完成後は中島家住宅を地域でも活用していきたい旨の声が上がりはじめた。

整備された参道

地域住民による草刈りの様子

④ 自己評価

参道工事に関しては、一定の評価を得ているが立地条件等により工事が難航しており、若干の遅れが生じている。

住民の意識の向上もみられ、効果があったと感じている。

⑤ 今後の対応

今後も計画年度内に事業を完了できるよう着実に推進させる。

併せて、地域住民と協働で周辺環境美化の取り組みを検討していくとともに、まちづくり団体への助成・支援を継続することで、地域の意識向上を図る。』

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年
方針	IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

歴史的風致の認識については、住民のみならず観光客等幅広く認識されることで維持向上するものであるが、本町では説明板が設置されていない歴史的建造物が多数存在し、その歴史的建造物等の位置を案内する案内サインや誘導サイン等も少ない。総じて情報発信媒体が不足している。

そのため、情報発信媒体の作製を進めるとともに歴史的建造物や交通結節点等での情報発信、歴史文化遺産の保存・活用に係るまちづくり団体等との連携による情報発信を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	案内板等整備事業	H27.2カ°ガイドライン策定、H30までに13基設置	あり	H26～35
2	岩石者（がんじゃくもん）マップ作製	H28.3発行（ガイドブック：1,000部、マップ：3,000部）	あり	H27
3	中島家住宅工事見学会の開催	4回実施。合計89名が参加	なし	H29～
4	普及啓発イベント事業の開催	九州歴史資料館にて「特別展 霊峰英彦山」の開催	なし	H29
5	添田町観光ガイドの会の発足	平成29年度発足	なし	H29～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

○案内板等整備事業

適切な誘導・統一的なデザイン・表記を目的とし、H27年2月に公共サインガイドラインを策定した。H27年度からガイドラインに基づき13基の案内サインを設置した。また、サインの老朽化や施設の廃止等により掲載内容が現状と連動していないサイン等を10基撤去した。

○中島家住宅工事見学会の開催

1日のみの開催であったが89名の参加者が集まり、中島家住宅に対する注目度の高さが再確認された。工事見学会は、好評を得たこともあり工事完了まで定期的に開催する予定。

○添田町観光ガイドの会の発足

H29年にそれまでの「ガイドボランティア」を引き継ぐ形で、稼ぐ観光にも焦点を当て、通常のガイドだけでなく自らイベントを企画・実施し観光客やリピーターの獲得を行っている。またブログを使った情報発信等も行っており、今後も連携し歴史的風致の情報発信に取り組んでいく。

設置した案内サイン

中島家住宅工事見学会開催時の様子

④ 自己評価

案内板整備事業は、ガイドラインの策定により効果的な事業展開が実施できている。

中島家住宅工事見学会も多くの方から好評を得ており今後も継続していくこととし、「添田町観光ガイドの会」にあつては、町と訪れた方への歴史的風致の周知の一躍を担うことを期待する。

⑤ 今後の対応

情報発信においては今後も計画に沿った事業実施を進めたい。しかし、策定時から町の状況や観光客の動向等常に変動しているため、その流れを掴んだ展開をしないとイケない。

今後は、庁内で観光DMOの設立や地域おこし協力隊の任用も予定しているため、加速度的な情報発信を実施し、更なる観光客の増加や交流人口の増加、SNS人口の増加を目指す。

また、夏休み期間等を活用し地元小学生等向けの工事見学会や体験事業などを企画する。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年			
効果	i 文化財の情報発信・PRの充実					
① 効果の概要						
英彦山区域に残る文化財を他地域で展示し、約8,000人へPRした。						
② 関連する取り組み・計画						
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度			
1	添田町第5次総合計画後期基本計画	あり	H27～31			
2	添田町観光戦略	あり	H28～31			
3	添田町まち・ひと・しごと創生総合戦略	なし	H27～31			
本町には多くの文化財が存在しているが、他の地域の住民が触れる機会が少なかった。そこで添田町観光戦略において、英彦山観光のプロモーションの強化を実施することとしており、福岡県小郡市にある九州歴史資料館において「特別展 霊峰英彦山 ―神仏と人と自然―」を本町共催イベントとして開催した。本来であれば本町まで来ないと見れない文化財を福岡市近郊で見れることもあり多くの方にPRを実施できた。						
③ 効果発現の経緯と成果						
歴史的風致の認定と併せて、平成29年2月に英彦山が国指定史跡となったことにより、九州歴史資料館（福岡県小郡市）にて、同館との共催により特別展を開催することができ、この年の7月の九州北部豪雨により来町者が減少しているなか、約1か月半の展示期間に約8,000人の来場者を集め、非常に効果的にPRができた。 また、関連イベントとして本町にて英彦山に関する講座を2回開催し、計43名の参加があった。						
		「特別展 霊峰英彦山 ―神仏と人と自然― 平成29年8月5日～9月24日 九州歴史資料館（福岡県小郡市） 主催：九州歴史資料館 共催：英彦山神宮・添田町・ 添田町教育委員会 来場者数：約8,000人				
						
		講座開催時の様子				
④ 自己評価						
町内での常設展示ではアプローチできていなかった地域・客層へアプローチできたことが大きな成果であった。また九州北部豪雨の被害により道路交通網も一時不通となっており、来町することが困難であったため、英彦山修験道館等の町内施設では来訪者等の増加はみられなかったが、本特別展で多くの方に英彦山の文化財を知って・感じていただける機会の創出の場となり、来場者からも好評を得た。 今後もこのような機会があれば積極的に活用し、文化財の情報発信・PRを実施していきたい。						
⑤ 今後の対応						
町内のみではPR力に限界があるので、今後も積極的に他地域に足を運び、多くの方に知っていただく機会を創出していきたい。知ってもらうことで、本町の事業にも関わってもらえる人材を増やし、文化財を守り、活性化に活用していく礎としたい。						

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年			
効果	ii 文化財に対する機運の醸成					
① 効果の概要						
文化財に対する機運が高まったことで、目標額を上回る138%のクラウドファンディング（寄付）を達成。						
② 関連する取り組み・計画						
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度			
1	添田町第5次総合計画後期基本計画	あり	H27～31			
2						
3						
添田町第5次総合計画後期基本計画において、歴史文化遺産の継承と活用として文化財の保存と活用の推進を実施することとしている。						
③ 効果発現の経緯と成果						
上落合吉木地区に300年もの間、春の訪れを告げてきたヤマザクラ（町指定文化財）。しかし、平成29年の豪雨災害により倒木してしまった。地域の宝として受け継がれてきたそのヤマザクラを今後も後世に伝え残していくため、クラウドファンディングを活用したモニュメント制作プロジェクトを実施した。 クラウドファンディングには、総勢141名からの寄付が寄せられ、目標金額を上回る138%を達成した。 これは、大切に守られてきた吉木のヤマザクラとヤマザクラのある風光明媚な景色が、地域のみならず多くの方から愛され、そしてそれを後世に引き継ぎたいとの想いの証である。 完成したモニュメントは、平成31年3月23日に道の駅にてお披露目され、その後、東京の新国立美術館で開催される国展に展示した後、吉木地区の地元、かつ豪雨災害で同じく被災したJR日田彦山線「彦山駅」に設置・展示する予定。						
④ 自己評価						
歴まち計画において、『歴史的風致の認識を町内外の方を問わず積極的に高める（第3章より抜粋）』としており、クラウドファンディングに取り組むことによって、町内外への周知の一躍を担う事が出来た。 また、本町としても、クラウドファンディングは初の取り組みであったが、北部九州豪雨災害からの復興への想いと併せ、古より大切に受け継がれ育まれてきた文化財に対する想いの広がりによって、大幅に目標額を上回る寄付を募ることができ、文化財への機運の高まりへの確信が持てた。						
⑤ 今後の対応						
近年は今までにないような災害が多発している。文化財の保存・活用に関して今まで以上の取り組みを実施し、さらに多くの方が文化財への関心や保全に携わってもらえるよう事業に取り組んでいく。						



完成した「花開童子」

「花開童子」とは…
英彦山修験者の修行の場、49
窟の一つである「花園窟」
の守護童子



お披露目式開催時の様子

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年			
効果	iii 観光客の受入態勢の充実					
① 効果の概要 添田町観光ガイドの増加						
② 関連する取り組み・計画						
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度			
1	添田町第5次総合計画後期基本計画	あり	H27～31			
2	添田町観光戦略	あり	H28～31			
3	添田町まち・ひと・しごと創生総合戦略	なし	H27～31			
『添田町第5次総合計画後期基本計画』において、観光ガイド（ボランティア）の育成を重点行動の一つである「歴史まちづくりプロジェクト」に掲げており、『添田町観光戦略』においては、「ただ案内や説明ができるだけでなく、エンターテインメント性やコーディネート力で高度なサービス提供ができるプロフェッショナルなガイドの育成」が位置付けている。						
③ 効果発現の経緯と成果 添田町観光ガイドボランティアとして平成11年より活動を実施してきたが、高齢化等により会員数が減少し、今後の活動への影響が懸念されていた。 そこで平成28年度より養成講座を実施し、9名が新規メンバーとして加わった。（養成講座参加者：16名、修了者12名） また、添田町観光戦略に掲げる“稼ぐ観光”の実現のために、ガイドもボランティアとしてではなく、報酬を得て自立・自走できる団体へと昇華させることとし、平成30年度に「添田町観光ガイドの会」が設立された。その中でガイド自身にも結果を求める気持ちが芽生え、平成30年度はまちづくり団体「英彦山門前町同好会」と共催イベントを実施する等、ガイドボランティアではなく、ガイドとして自主運営していくという機運が醸成された。 養成講座前 6名 → 養成講座後 15名						
						
養成講座の様子		添田町観光ガイドの会活動の様子				
④ 自己評価 観光ガイドの増加やボランティアからの脱却等、計画通りの成果が上がっている。 しかし、若手の加入者が少なく、数年後には再度高齢化の問題が危惧されている。						
⑤ 今後の対応 添田町観光ガイドの会は、町内者のみならず、町外者も加入していることから、様々な視点から添田町を捉えることができる団体でもあるため、今後も町・地域住民・各種団体との協力体制を強化していく。 また、稼ぐ観光とともにおもてなしの充実した活動や若手ガイドを含む会員数の増加を目指し、安定的な運営ができるようサポートを続けていく。						

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年
取り組み	A 公共サイン整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

平成25年度現在、町内には274ヶ所のサインがありそのうち155ヶ所が町管理のサインである。しかし、統一の基準がなく全体的に統一感が感じられないものであった。また、表示している情報も伝わりにくく、複数のサインが乱立している箇所も存在し景観を悪化させているものも見受けられたため、適切な誘導・統一的なデザイン・表記を目的として「添田町公共サインガイドライン」を平成26年度に策定した。

そのガイドラインにおいて、誰でも分かりやすい誘導は当然ながら、周囲の景観と調和しつつ、自然木の幹の色である茶色と神社で多用されている朱色をアクセントとして用いて”添田町らしさ”をサインでも表現するデザインとしており、そのガイドラインに基づき、設置と既存サインの撤去を実施した。

平成27年度 新規設置：2基、撤去：9基
 平成29年度 新規設置：5基、撤去：3基
 平成30年度 新規設置：6基、撤去：7基





ガイドラインに沿って新設された案内サイン

撤去した案内サイン

② 自己評価

現在設置を進めている地域は、重点区域である「英彦山区域」を主とし、そこを結ぶ交通結節点である。現状としては、計画的かつ効果的な設置が実施できている。

一方で、重点区域である「添田本町等区域」における設置が進んでいない状況であるため、今後検討する必要がある。

また、老朽化したサインや表示施設の廃止等により掲載内容が現状と連動していないサイン等を撤去したことにより、景観の回復及び情報伝達の効率化に寄与できた。

外部有識者名	梶谷 敏明 氏（添田町文化財専門委員会 委員長）
外部評価実施日	平成31年1月24日

③ 有識者コメント

添田町の公共サインの整備については、平成27年度から4年間で、撤去したものや新設したもの、高さ色彩など配慮した整備がなされてきた。

しかし、英彦山を中心としており、本町地区や岩石山、添田公園等の誘導サインや案内サインが遅れている。

また、道路地図誘導サインの明確化、外語表記が不十分、次に町史の柱となる史実のガイド板の充実など、31年度からは留意してほしい。

④ 今後の対応

重点区域である「添田本町等区域」内において重点施設である中島家住宅の保存修理事業の完成に合わせ、町部の設置工事を進めていきたい。

また施設毎の説明サインについても充実させる必要がある。

今後はインバウンドへの対応としてQRコード等の導入についても検討する。

市町村名	添田町	評価対象年度	H27～H30年
取り組み	B 児童・生徒に対する意識向上推進事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

後世への伝承者である児童・生徒に対し、町内の小・中学校と協力しながら、添田町の歴史や歴史文化遺産に関する授業に取組むため、テキストを作成するとともに、授業への学芸員の派遣、文化財の現地見学等の本町の歴史文化への意識向上に資する取り組みを実施することとしており、平成27年度に町内小学校（5校）の協力を受けながら、歴史・文化に関するテキスト「知ってる？ 添田町の歴史」を作成した。

平成28年度には、作成したテキストを協力いただいた小学校（5校）に配布し、社会科や総合的な学習の時間において活用していただいた。また、町立図書館に配布したところ、子どもだけでなく、一般の閲覧者からも大変好評を得た。

平成29年度は、町内の小学校へ学芸員を派遣しテキストを活用した講義も実施した。



対象学年	授業内容	使った感想
3 年生	町内の小学校について 受け継がれる行事 校区探検マップづくり	・歴史、概要がのっているため、事前指導に活用しやすい ・若い教師、他地域の教師が増えているため、効果的活用を進めたい ・教科書にでてくることが、添田でもあったと知ることができ、身近な学習となるので良い
4 年生	鬼杉(劇) 町内のダムについて 伊原水路について	・調べ学習で利用しやすかった ・添田町全域のマップがとてよよかった
5 年生	英彦山について(立志の道事前指導)	・字の大きさやイラストなど、3・4 年生がちょうど見やすい教材
児 童 の 反 応		・朝読書の時間など、授業以外でも読んでいる児童がいた ・「添田でも～」、「添田には～」と学べるので学習へのくいつきがよかった ・自学で利用するなど、興味をもって読んでいた

テキストを使った授業の様子
平成29年度に実施したアンケート

② 自己評価

作成したテキストは、小学生だけでなく、町外から赴任した教員にとっても添田町の歴史を知る良い教材となっており非常に効果的であった。

アンケート結果にもあるが授業以外に自学等で活用する児童もいる。今後も継続的に出前講座等を実施し更に興味を深めてもらえるよう取り組みを実施したい。

しかし、現状では中学生に対してのアプローチができていない。テキストで学んだ小学生が中学生になっても添田町の歴史に興味を持ち続けてもらえるような取り組みや企画が必要である。

外部有識者名	梶谷 敏明 氏（添田町文化財専門委員会 委員長）
外部評価実施日	平成31年1月24日

③ 有識者コメント

郷土を学習するテキストができたことは願ってもないこと。役立ててほしい。

また、添田町の歴史文化の中で、子どもたちがどの内容に興味を持っているか気になる場所であるが、講義中心だけではなく、現地に赴く体験的な学習を取り入れてほしい。そうすれば「身近な郷土の歴史学習」が、ひいては「日本の歴史」へと関心を持ってくれるのではないかなと思う。

今後は、平清盛によって築かれ豊臣秀吉による九州征伐の最初の場となるなど、歴史ある岩石城について学んでいただきたい。岩石山登山体験も良いのではないかな。

④ 今後の対応

小学生に対しては現状の取り組みを維持しつつ、文化財等に実際に触れる機会の創出等を検討し、更なる興味の深堀りを目指す。

中学生に対しては郷土への愛着を増すような新たな取り組みを計画していきたい。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年
歴史的風致	1 英彦山神宮にまつわる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承 III 歴史的建造物を取り巻く環境の保全		

① 歴史的風致の概要

江戸時代、隆盛を極めた英彦山修験道の中心行事である松会祈年祭は、かつては「御潮井採り」「柱松」「御田祭」「神幸祭」の順に行われていたが、明治維新の廃仏毀釈、神仏分離のため、山伏の離山、人口激減などで開催時期や形を変えつつも「柱松」や「御潮井採り」、「御田祭」、「神幸祭」として護持されてきた。

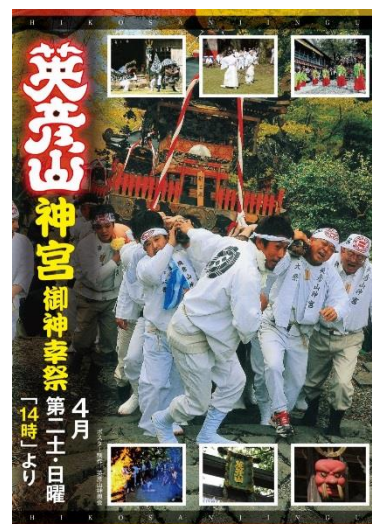
この神事は、英彦山神宮下宮の祭礼として、重要文化財英彦山神宮奉幣殿から重要文化財英彦山神宮銅鳥居を結ぶ参道空間において、往時の面影を保ちながら今日も厳粛に執り行われている。

② 維持向上の経緯と成果

高齢化率の高い本町（H28.9末：38.96％）のなかでも特に高い英彦山地区（同：59.57％）においては、居住者自体の減少が課題であり、結果的にかつて山伏の住居であった宿坊の面影を残す歴史的建造物の維持・管理が行き届かず、適切な管理がなされていない。

そういった中、山伏の子孫の方がUターンして、自主的に建造物の補修を行いイベントを実施するなど、当該地区の活性化に向けた活動を行っている。また、英彦山への畏敬の念をもつ方が住居を構えるなど、地域の活性化に向けた取り組みが進みつつあり、街並みを保存するため、平成30年度に1件を歴史的風致形成建造物に指定しており、今後も順次指定に取り組むこととしており、今後、『英彦山地区歴史的風致形成建造物修理事業』を活用して、街並み保存に取り組むこととしている。

また、英彦山神宮神幸祭における神輿担ぎを担う「英彦山神輿会」に対し、担ぎ手を募集するポスター製作費を助成したことによって、それまで苦労していた担ぎ手集客が容易となるとともに、観光客も倍増（約500人→1,000人）することに繋がった。



民俗芸能文化財等伝承支援事業の活用により担ぎ手が集まり全3基の神輿が参道を練り歩いた。（英彦山神宮提供）

③ 自己評価

英彦山地区を中心とした坊舎等の民間活用も増えつつあり、再興に向けた兆しが見えつつある。

しかし、依然として高い高齢化率の中、人口の増加はもとより、若年層の取り込みが大きな課題である。

④ 今後の対応

今後も英彦山神宮を中心とした、英彦山地区住民や関係機関とも連携を深め、事業を展開していく。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年
歴史的風致	2 添田本町地区と神幸祭にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承 II 歴史的建造物の保存・活用の推進 III 歴史的建造物を取り巻く環境の保全 IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進		

① 歴史的風致の概要

添田本町地区の神幸祭は、英彦山にまつわる神幸祭の流れと祇園祭の流れを汲む祭として、今は疫病退散や町内安全を祈願している。この神幸祭は、岩石城の城下町に端を発して整備された日田道沿いの町割りの上に、重要文化財中島家住宅を中心とする町家建築が軒を連ねる中で老若男女関わらず参加する祭りで、稲穂に見立てた華やかなパレン飾りを靡かせて山車が巡幸する様は、白壁に映えて非常に美しい。往時の町家の人々の歓声や活気が蘇ってくるようであり、白山神社の権現信仰と相まって比類なき情緒が残されている。

② 維持向上の経緯と成果

中島家住宅保存修理工事では、現在ほぼ解体工事が終わり、今後は復元工事へと移行する。解体工事とともに耐震診断を実施した結果、耐震性能不足が判明したため、耐震補強工事を追加で実施することとなり、工期等に遅れが生じている。

しかし、中島家住宅への注目度は依然として高く、工事見学会を開催した際には、地元住民はもとより他地域からも多くの見学者が集まり、大変好評であった。揚屋工事を実施している現在は危険も伴うため、復元工事が開始された後、再度見学会の開催を望む声も届いている状況。

また、工事完了後の活用について、現在民間の力を活用するため、平成30年度からPFIの活用も視野に入れた事業検討を開始した。

添田本町地区においては、地域住民を中心とした「重文・中島家住宅推進協議会」が発足され、旧日田街道を花で彩るための土づくりを実施している。

また、中島家住宅ではその庭の草刈り等の管理について地元住民が年2～3回の草刈りを実施するなど、中島家住宅が地域の宝であるという機運の高まりを見せている。

なお、添田本町地区の神幸祭にあっては、中島家住宅は修理中で覆われているものの、今も残るかつての商家の前をパレンをなびかせた山車が巡行している。



解体工事の様子

H29.10



解体工事（揚屋）の様子

H30.5

③ 自己評価

中島家住宅において保存修理工事の遅れに加え工事完了後の活用手法に検討を要するなど課題が残されているが、周辺住民によって平成29年に設立された団体と、協働で検討を行っている。

④ 今後の対応

添田本町地区においては、維持管理が行き届いておらず滅失が心配される歴史的建造物が多く残されている。地元を中心としたまちづくり団体の設立など歴史的風致に対する機運が高まりつつあるのでこれを好機と捉え、歴史的建造物に対する住民の理解を高め地域で守り、活用していくためのサポートを強化したい。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年
歴史的風致	3 英彦山水系流域と伝統芸能にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承 IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進		

① 歴史的風致の概要

天水分の山「英彦山」は、彦山川や今川の水源地であり、英彦山の麓の集落に流れ出ている。これらの河川は農耕を営む人々にとっての生命の源であり、かつ水害を引き起こす脅威でもあった。山に対する感謝の念と畏敬の念が山岳信仰を発生させ農耕における水分信仰の中心となった。農耕の予祝祭として行われる神幸祭は、英彦山から始まり、水が低きに流れるように神幸祭も下流域に広がっていく。神幸祭では、豊穡を祈る祭りとして山伏修験から影響を受けた神楽や獅子楽の伝統芸能が各所で奉納されてきた。

山神への崇敬、畏敬を忘れず、英彦山水系の村々の若衆や子供たちの奉納する躍動みなぎる神楽や獅子楽は山里の特徴ある風情として地域に浸透している。

② 維持向上の経緯と成果

野田地域に伝わる獅子楽の後継者育成や獅子楽の継承に向けた取組みのため、民俗芸能文化財等伝承支援事業により獅子舞の衣装(脚絆、小手)の購入費にかかる助成を行った。

本補助金の交付により、不足・損傷した獅子舞用衣装を補うことができ、会員にも来年に向けた意気込みも強いものとなったと、歴史的風致の維持に繋がる成果が得られた。

また、津野地域で守り受け継がれている津野神楽について、「豊前神楽」の要件をみたしていることから、指定団体である「豊前神楽」に加入したことによって、国指定無形民俗文化財の指定されたこととなった。

なお、各地域の情緒ある神社の境内で、大切に受け継がれてきた獅子舞や神楽について、歴史的風致の認定を機に、町内外に知られることとなり、町主催のフォトコンテストへの応募作品も増えている。



助成事業で購入した獅子舞衣装
(左:襷、右:小手)



平成28年度 フォトコンテスト入選作品

③ 自己評価

民俗芸能文化財等伝承支援事業について、衣装等の補充はもちろん既団員の機運上昇に繋がるなどの成果があったが、神幸祭やイベントでの奉納、実演などを通じて周知と併せ、後継者育成・演者募集を図り、団体の維持に努める必要がある。

併せて、他にも伝統芸能を実施している地域や団体があるため、支援メニューの活用を含め、更なる歴史的風致の取組みをPRし、今後も維持・発展していけるよう展開する必要がある。

④ 今後の対応

伝統芸能実施地域及び団体の支援メニューの活用を促すためPR等に取り組む。また、後継者の育成等の課題解決に向け、協議の場等を設定し今後も伝統芸能が的確に継承されるようサポートを実施していく。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年
歴史的風致	4 彦山踊りにみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承 III 歴史的建造物を取り巻く環境の保全 IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進		

① 歴史的風致の概要

彦山踊りの由来は、元弘3(1333)年に助有法親王が座主として下向した時に始められたと言われている。江戸期～大正期までは主に盆会や祝祭事で踊られ、8月15日、16日頃を中心に踊られていた。

彦山踊りは報恩寺跡、勢溜、町溜を中心に踊られており、勢溜では門前供養として古来より踊られ、町溜は旅館や土産物屋が建ち並び、神幸祭の神輿休めの場所であるため参詣者や宿泊客も参加して賑わっている。報恩寺跡では、盆会の8月14日に祖霊祭が行われ踊られる。

子供たちのはしゃぐ声が響き三味線や笛、太鼓の音頭、口説き手の声が闇夜に静かに溶け込み、菅笠姿の踊り手のしなやかな足運びは、深山にも「みやこ情緒」が感じられる。

② 維持向上の経緯と成果

彦山踊りが踊られる報恩寺跡や勢溜、町溜は英彦山神宮参道にあるが、その参道の維持管理については古来より地域住民により守られてきた。しかし人口減少の影響もあり、参道や水路の掃除、崩れた石垣の補修など手の行き届いていない区間が多く見られるようになった。そのため、参道が荒れ始め近年の豪雨時には参道を川のように雨水が流れ、石垣を壊し始めていた。

そういった状況であったため、もう一度往時の状況に戻し、かつ今後の管理が行いやすいよう参道の整備工事を実施している。参道の整備は、参道の道路整備にかかるもの（英彦山神宮参道保存整備事業）と、参道に付随するストリートファニチャーにかかるもの（英彦山神宮参道修景整備事業）について実施しており、荒れた石段や水路の補修や石塔の補修、消火栓の景観に即した色への塗装替え等を実施している。

また、規模の大きさや立地条件の悪さ等により若干の遅れが生じているが、工事竣工された箇所を歩いた参拝者からは、参拝しやすくなったと大変好評を得ている。

また、彦山踊り保存会については、田川市郡の市町村の伝統芸能を担う団体が一堂に会し発表する「伝統芸能発表会」に、毎年参加し、周知に努めている。

啓発イベント開催時に披露された彦山踊りの様子 H26.3

整備された英彦山神宮参道

③ 自己評価

参道整備工事に関しては、若干の遅れが生じているものの計画通り進捗している。

会員の高齢化が顕著である「彦山踊り保存会」と協議を行った結果、以前まで特定地域に住む者しか会員になれなかった経緯があるなど、会の方針にも課題があることが判明。

④ 今後の対応

参道整備工事はこれ以上の遅れを生じさせないよう関係機関や団体、地域と連携し事業を進めて行く。

彦山踊りは、会の存続が危惧されているため、地域を限らない会員の募集など運営方針の協議を行い、会の存続を含めた後継者の確保に向けて、会との協議を継続することとする。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年
歴史的風致	5 英彦山詣でと英彦山権現講にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承 IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進		

① 歴史的風致の概要

英彦山権現講は、毎年または数年に一度、代表者により英彦山を参詣することが習わしになっている。また九州一円に広がっているため様々な権現講が存在しており、江戸時代の『檀方帳』によると、佐賀県や長崎県において信仰が強大であったと示されている。

英彦山権現講の参詣は、英彦山参詣路を通して英彦山神宮を参拝するもので、時代の移ろいの中で参詣する様相は変化しているものの、英彦山を参詣する光景から英彦山信仰を感じ取ることができる。

② 維持向上の経緯と成果

重点区域である添田本町区域や英彦山区域はもとより、町内には多くの参詣路が張り巡らされている。また、参詣する様相が変化しているだけでなく、参詣路も近代化している。

そういった中であっても、現在も山伏の衣装を身にまとい、ほら貝を吹き、春・夏は宝満山、秋は皿倉山から英彦山を徒歩で参詣する団体や個人が多くいる。この参詣は峰入りと呼ばれ、かつては山伏の修行の一つであり、この峰入りを一定数行わないと英彦山の山伏にはなれないなど重要なものであった。

このように、他の地域から英彦山を参詣する習わしや伝統は今も引き継がれており、英彦山がいかに重要であったかが窺える。また、この参詣の一行に並び念仏を唱えほら貝を吹く様子は、往時の様子を現代に生き移したようであり、英彦山詣での中心的存在であり崩壊しつつあった銅鳥居から奉幣殿までの約840mの石段が連なる参道について、荘厳な雰囲気を守りつつ保存修理工事に取り組んでおり、併せて活用のためのベンチ等の整備にも取り組んでいる。

また、歴史まちづくり推進協議会設立支援事業（H27年度～H29年度）により、英彦山神宮参道を中心に活動を行う団体として、H29年3月に「英彦山門前町同好会」が発足された。同団体は、地域住民だけでなく英彦山にゆかりのある方やその子孫、更には英彦山に造詣のある方が賛同し結成された団体である。当事業の一環として、参道歩きマップを作成したが、自主運営になった後もマップを活用し参道を紹介するイベントを開催するなど精力的な活動が目立ち、英彦山地区、特に参道の再活性化に対して多くの方へのPRが実施されている。

③ 自己評価

英彦山門前町同好会の発足により、主催イベントの実施等、参道を中心とした活性化が行われた。

参道整備にあつては、町道であるとともに、英彦山神宮参道でもあるため、神宮をはじめとした関係機関と密な協議により、雰囲気の維持向上とともに、通行者の安全確保が図れた。

④ 今後の対応

計画期間内に参道整備を確実に竣工できるよう、関係部署や関係機関等と連携を深める。英彦山門前町同好会の活動がさらに充実できるよう支援を継続する。



秋の峰入りの様子

「英彦山門前町同好会」発足時の様子
H29.2

作製したマップ（左：表、右：裏）

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年
歴史的風致	6 高住神社にまつわる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承 IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進		

① 歴史的風致の概要

英彦山では古来より豊前坊で秋に万物成就を祝って神幸祭を行っており、その後全ての神々に感謝し、採燈護摩供を行っている。

豊前坊は時代の流れの中で高住神社と名を変えたが、今も英彦山信仰の東の玄関としてその役割を果たし、牛馬信仰の中心地として農村部から多くの参詣者を集めている。

高住神社の社は、修行の窟の岩屋に取り付いて建てられ、周辺にも逆鉾岩等に見られるような奇岩に富み、身のすくむような断崖絶壁である望雲台行場など、天狗の住処に相応しい景勝地がある。また、英彦山北岳の登山口に位置し、多くの参詣者が訪れている。

② 維持向上の経緯と成果

高住神社は、英彦山北岳の登山口としての要所である。また、英彦山北岳は英彦山三峰（北岳・南岳・中岳）の中でも最も神域とされ、天忍穗耳尊（あめのおしほみみのみこと）が鎮座していると言われている。

また、昭和57年～昭和59年の学術調査の際に山頂から経塚が確認されるなど、歴史的風致を語る上で非常に重要な場所である。

高住神社では、9月に実施される神幸祭と11月に実施される採燈護摩供が代表的な歴史的風致であり、それぞれ多くの参詣者で賑わいをみせている。

しかし、関係機関の中で、関係性が悪化した時期があり、それぞれの団体が各々の想いで活動しているのが実情で、それぞれの想いを調整することが困難であったことから、特有の歴史的風致を周知するための、助成金交付による活動支援やパンフレットへの掲載など周知に向けた取り組みに関する協議を行える状況にはなかった。



神幸祭の様子



採燈護摩供の様子



参詣者による火渡りの様子

③ 自己評価

関係機関の間で関係性が悪化したことで、祭礼のパンフレットへの掲載・案内板の整備などに関する協議すら行える状況ではなかったため、事業着手が出来なかった。

今後も、継続した関係性改善に向けた協議支援を行い事業を推進する。

④ 今後の対応

関係機関の関係性の改善に向けて協議支援を行うとともに、改善がみられれば「民俗芸能文化財等伝承支援事業」の活用を促し、歴史的風致の周知に向けて取組みを推進する。

また、日田市やみやこ町からの玄関口としても要所であるため、公共サイン等を適宜設置し、観光客等の適切な誘導を図る。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年
------	-----	--------	----------

① 庁内組織の体制・変化

計画策定時より、文化財係を教育委員会から町長部局へ移管し、風致計画の推進に向け強化を図っている。また、町長部局へ移管したことにより、関係各課との連絡体制も円滑になり、必要に応じて協議の場を設ける等、事業の進捗に寄与した。今後もこの体制を維持し、充実した計画の実施に努める。

添田町庁内体制

事務局

・まちづくり課 文化財係

連絡調整

関係各課

・住環境整備課
・道路整備課
・地域産業推進課
・教育委員会 など

庁内会議の様子

② 庁内の意見・評価

- ・順調に進捗している。今後も計画に沿った事業展開ができるよう関係各課が連絡体制を維持し推進すること。
- ・災害等の影響により、計画の一部に影響が生じる恐れがある。今後の経過等にも配慮しつつ適宜対応をすること。
- ・インバウンド対策については、関係各課と協力の上、対応すること。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年
------	-----	--------	----------

① 住民意見

パブリックコメント（中間評価）の結果
・意見なし

② 協議会におけるコメント

添田町歴史的風致維持向上計画推進協議会（H26～H30コメントより抜粋）
（H26～H27）

- ・中島家住宅活用整備については、駐車場、トイレ等の速やかな検討・対応が必要と思われる。
- ・案内板等デザイン方針、整備事業については、今後長く設置されることを踏まえ、誰がいつ設置したのか分かるようにする必要があると思われる。また、中国、韓国からの旅行者のことも考えて多言語対応も検討が必要と思われる。
- ・児童・生徒に対する意識向上推進事業で作成したテキストについては、教師向けの指導用テキスト等あればより良い取り組みとなっていくと思われる。

（H28）

- ・中島家については、単に復原補修するに止めず、活用のための具体案を今から立案推進すれば（委員会設置）町民の関心も高まるとされる。
- ・添田町歴史的風致維持計画と、英彦山国指定史跡が、車の両輪のように相乗効果を発揮する両者の接点を具体的に見出し検討を広め、深める必要があるように思われる。
- ・今後は町設置の案内板だけでなく、一般の屋外広告物についても、デザイン方針等を定めて周知及び指導を行うことにより、本事業はより効果のあるものになると思われる。また、サイン内容の充実やインバウンド対策として外国語表記についても併せて検討することが必要と思われる。地道に設置することが大切と思うが、一方で整備をやりすぎないような配慮も今後は必要になると思われる。

（H29）

- ・歴史的活動を守るためには、そこに住む住民の意識が大切であるが、それと同時に外部に情報発信をすることも大切である。
- ・中島家住宅についてまちづくり団体も結成され、地域の大事な文化遺産として伝えていく目途がたつたと思われる。そのため計画ありきではなく、地域と歴史遺産の幸福な関係を、保存修理の工程の中で醸成していくことが重要である。
- ・英彦山神宮参道保存整備・修景整備事業について、しっかりと進めていただきたい。かつての参道のにぎわいが新しい形で戻ってくるとよいと思う。そのためには、ハード整備に加えてソフト部分での参道の在り方についての検討が必要となる。

（H30）

- ・案内板等整備事業について、DMOやインバウンド等海外からの観光客が増加している。多言語対応についても考えていく必要がある。
- ・町指定天然記念物「吉木のヤマザクラ」については、たくさんの寄付が集まり、指定の解除も受けず、文化的な景観の保全ができています。
- ・児童・生徒に対する意識向上推進事業において、小学6年生～中学生を対象とした副読本の作成を検討してはどうか。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～H30年
① 全体の課題 (1) 歴史と伝統を反映した人々の活動に関する課題 - 本町の高齢化率は、全国平均27.7%（内閣府「平成30年度高齢社会白書」）に対し、39.7%（H29.9月末）であり、また、全国ではから4.7%（23.0%⇒：平成22年国勢調査）の上昇に対し、6.0%（33.7%⇒）も上昇しており、高齢化及びその伸びが顕著であると言え、活動を担う人材不足が危ぶまれることから、祭礼などの伝統的活動の継承に課題がある。 - 一部の伝統的活動について、高齢化とともに、特定の地域に住む者しか担えない歴史・背景から、その活動の維持が危機的状況にある。 (2) 歴史的建造物に関する課題 - 本町は、空き家化も進捗しており、特に歴史的建造物の所有者は高齢な方が多いため、歴史的建造物の空き家化のスピード化することが危惧されている。 (3) 歴史的建造物を取り巻く環境に関する課題 - 歴史的建造物周辺においては、景観を阻害する要因となる整備・開発は、幸いにも行われていないものの、既に空地化・空き家化した土地の管理が行き届かず、草木が茂り、情緒・雰囲気阻害する要因ともなっている。 (4) 歴史的風致の認識に関する課題 - 本町を訪れた方を誘導するための誘導サインの多言語化について、自動車誘導サインは記載スペース関係上、英語のみの併記にとどまっており、修験道関連遺跡などについては、特有の精神論から説明すると長文となりがちで、多国語で標記することは不可能。また、それらの遺跡の多くは、携帯電波の届かない山間地にあり、アプリなどの対応も不可能など、今後の訪日外国人に対するインバウンド対応が課題となる。			
② 今後の対応 (1) 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承 - 津野神楽の詳細な調査の結果、「豊前神楽」の要件をみたしていたことから、保存連合会の加入を以って国指定無形民俗文化財に追加指定となったように、更なる調査掘り起しを図る。 - 担い手不足がより深刻化している伝統芸能を担う団体と、継承のための開放した活動に向けて協議を行い、講座を通じた担い手の募集・育成について検討を行う。 (2) 歴史的建造物の保存・活用の推進 - 歴史的建造物の保存に向けて所有者に理解を求め、歴史的風致形成建造物の指定を推進し、併せて保存修理に係る費用を助成することにより歴史的建造物の維持継承を支援する。 (3) 歴史的建造物を取り巻く環境の保全 - 英彦山神宮参道の景観を損ねていた上水用パイプについては、整備工事に併せて、景観に馴染む茶系統に変更するとともに、見えないように地中化や移設する。 - 歴史的建造物周辺における空地の草木の繁茂については、所有者に対し適切な管理を依頼するとともに、地元やまちづくり団体による請負体制の整備について模索する。 (4) 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進 - 景観に配慮したサインの整備とともに、景観を阻害していたサインの撤去については順次進めているが、インバウンド対応についてはQRコード等の活用を推進する。			